

摂津市上下水道ビジョン〔改定版〕【下水道編】概要版

摂津市上下水道ビジョンの将来像 公共下水道により快適な生活ができるまちにします！

現行ビジョンの実現化方策（施策） ⇒ ビジョン期間中の取組実績

◇快適な生活環境の創出

～快適で衛生的な生活ができる下水道～

- **公共用水域の水質**
 - ・水質検査の継続実施
- **下水道人口普及率・水洗化率の向上**
 - ・市街化調整区域、下水道未整備区域の計画的な整備
 - ・水洗化啓発活動の継続

● **公共用水域の水質**

- ・公共下水道及び特定事業場等への水質検査の実施
- ・排水基準値超過の場合は改善指導
- **下水道人口普及率・水洗化率の向上**
 - ・市街化調整区域に約0.8kmの污水管を整備
 - ・未水洗化世帯への戸別訪問

◇危機に強い下水道の実現

～被災を最小限にとどめ、迅速に復旧できる下水道～

- **老朽化対策の推進**
 - ・ストックマネジメント計画の策定
 - ・ストックマネジメント計画に基づく点検、調査の実施
 - ・点検調査結果の管理体制の構築
- **浸水対策の状況**
 - ・雨水幹線の整備
 - ・幹線周辺地域の雨水整備
 - ・開発審査時の指導體制の維持
 - ・内水ハザードマップを活用した広報
- **地震対策の状況**
 - ・管渠の耐震化
 - ・BCPの見直し実施

● **老朽化対策の推進**

- ・ストックマネジメント計画の策定(令和2年度)と見直し(令和6年度)
- ・計画に基づく点検・調査の実施
- ・統一様式を使用した点検調査データの管理

● **浸水対策の状況**

- ・三箇牧雨水幹線、東別府雨水幹線の供用開始
- ・東別府雨水幹線周辺に341mの雨水管整備
- ・大規模開発に対する雨水流出抑制の指導
- ・内水浸水想定区域図の更新と市内全戸配布

● **地震対策の状況**

- ・約2.5kmの管渠の耐震化実施
- ・BCPの時点修正及び上下水道部危機管理計画の更新
- ・小中学校へマンホールトイレ60基を設置

◇下水道サービスの維持・向上

～水需要が減少しても、健全かつ安定的な事業運営が可能な下水道～

- **下水道事業の健全な経営**
 - ・流域下水道との不明水対策の連携の強化
 - ・不明水浸入箇所改築更新
 - ・不明水対策の効果の検証
 - ・排水設備検査体制の強化
 - ・現行下水道使用料のあり方の検討
 - ・経費回収率100%の達成
 - ・基準外繰入金削減
 - ・経営戦略の実行及びPDCAサイクルを通じた見直し
- **人材育成などの推進**
 - ・内部研修・外部研修の充実
 - ・業務の効率化施策の検討
 - ・災害発生時の体制強化
 - ・官民連携手法の導入可能性の検討
- **住民への広報活動**
 - ・小学校向け出前講座の継続
 - ・市広報誌、ホームページを通じた情報提供
 - ・環境フェスティバルを通じた情報提供
 - ・災害関連ページをアイコンとして集約させたホームページの作成

● **下水道事業の健全な経営**

- ・流域下水道不明水対策協議会への参加
- ・管渠内テレビカメラ調査の実施
- ・水道施設課と連携した排水設備検査の実施
- ・予算・決算時に収支見直しを更新
- ・新規企業債の発行抑制と低金利融資の活用
- ・資本費平準化債や減債積立金の活用

● **人材育成などの推進**

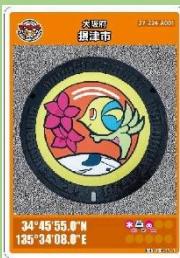
- ・部内研修会や外部研修会への参加
- ・民間事業者と災害時の応援協定締結
- ・委託業務の契約範囲拡大の検討

● **住民への広報活動**

- ・出前講座の実施、環境フェスティバル出展
- ・デザインマンホールの設置
- ・マンホールカードの作成
- ・ホームページのデザイン検討

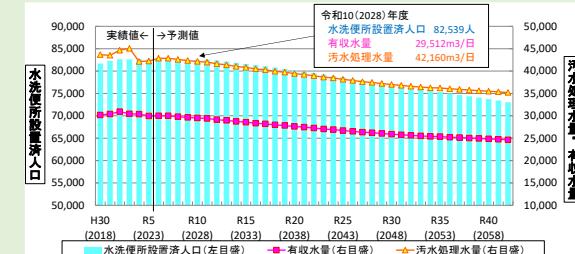
● **デジタル化の取組【追加】**

- ・内部管理システムの更新
- ・上下水道マイポータルなどの運用開始



将来見直し（見直し）

■ 汚水処理水量、有収水量の将来見直し

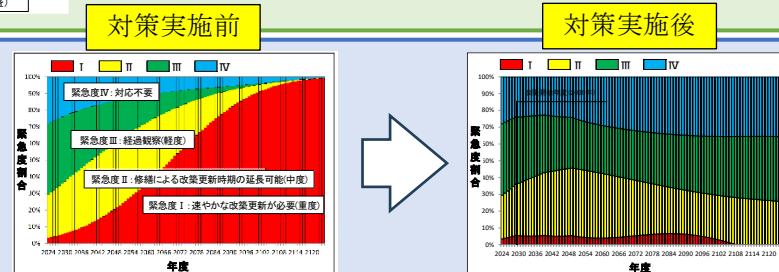


- 人口推計の見直し、ならびに近年の使用量実績を加味して見直し
- 水洗化人口の減少幅が緩和したことで、汚水処理水量と有収水量の減少幅も緩和

■ 更新需要の将来見直し

【管渠（修繕・改築）】

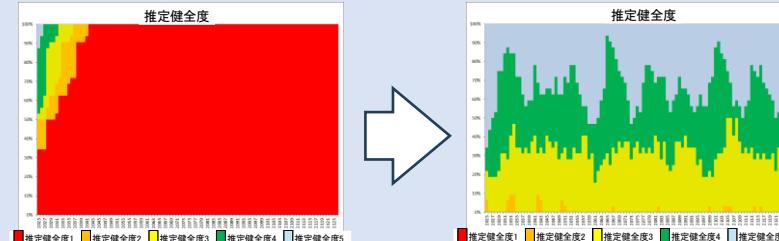
- 段階的に事業量を設定
- 令和12(2030)年度～ 5億円/年
- 令和22(2040)年度～ 8億円/年
- 令和32(2050)年度～ 12億円/年



緊急度Ⅰの割合を低く保つことが可能

【マンホールポンプ場（修繕・改築）】

- 目標耐用年数を超過した順に更新
- 年間上限投資額9百万円（平均3百万円/年）



推定健全度1の割合を0、推定健全度2の割合を低く抑えることが可能

新たな課題

- 過去に集中的に整備を行ったことで、今後は法定耐用年数50年を経過する管渠が急激に増加
- 材料価格や労務単価の高騰、週休2日制工事の推進による管渠の再投資価格の上昇
- 浸水対策や地震対策など、昨今の気象変動等による災害対策の増加
- 先進技術の活用も含め、従来のやり方に囚われないデジタル化の推進

中間見直し

- 「将来像、目標、実現化方策（施策）」は、基本的に現行ビジョンを踏襲
- 実現化方策に「デジタル化の取組」を追加
- 「経常収支比率」は目標値達成

指標名	単位	現状 令和5(2023)年度	目標値 令和10(2028)年度
下水道人口普及率	%	99.3	100.0 ※
水洗化率	%	96.4	100.0 ※
雨水面積整備率	%	55.5	55.8
経費回収率	%	96.8	100.0
経常収支比率	%	104.1	100.0以上

※全国的にも100%の市は極めて少数ですが、目指すべき目標値として定めています。